

# [第 145 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5 年 12 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 6 年 1 月 6 日 (土) 15 時~17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
- テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.297~(用意します)
- 塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2023 年 12 月 2 日(土)、安曇川公民館で第 143 回藤樹人間学塾を開きました。今回は初参加者、京都、大津、長浜からの参加者を入れて 10 名でした。

■ テキスト 中江藤樹著『鑑草』の第六巻 廉貪報の第2話~第4話

■ あらすじ

第2話、第3話(略)。第4話 周才美は妻を娶った。彼女はとても賢く心のきれいな人だった。才美は妻に家計を任せようと思い、升を二つ取り出して、「この小さな升で人に渡し、大きな升で人からもら

いなさい」と説いた。しかし妻は、そのやり方を拒んでこう言った。「そのようにしなければやっていけない所帯でしたら私には務まりません。実家へ帰らせていただきます」…(略)

■ 配布資料

(1)「まなざし 463 号」、(2)「タライの水」、(3)横田南嶺「空手にして来たり 空手にして去る」(致知)、(4)寺田清一編集「般若心経現代語訳」

■ 今日のポイント

- ・ 普通の人、貧しい時は財産が増え、富む時は財産が増えないと考える。しかし廉直であつても決して財産を失わない。
- ・ 人間は皆、空っぽのタライのような状態で生まれてくる。そしてそのタライに自然やたくさんの人たちが水を満たしてくれる。その水の有難さに気づいた人が他に幸せをあげようと水を相手に押しやろうとする。そうすると幸せは自分の方に戻ってくる。一方、…(略)
- ・ 金銀財宝持つ人も携え行くべき道ならず。妻子眷属ありしとて伴い行くこと更になし(『菩提和讃』)。己に随い行くは只是善悪業等のみなり(道元禅師)。
- ・ 要するに般若心経の真義は何かといえば、絶対肯定と如是感謝の肚がまえだ(寺田清一)。

■ フリートーキング

- ・ 「人に与えたものが自分の受け取るものだ。自分の言動は自分に返ってくる」
  - ・ 「永平寺で一泊禅修行をしたことがある。財産をあの世へ持っていけないので生きている間にいかに時間を使うか。実践活動するかだと思う」
  - ・ 「般若心経を数年前から暗唱できるようになったが、今日、意味が分かって良かった」
- 他、いろいろなご意見をいただきました。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。

